

# 自己評価表

- 自己評価表は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は項目の最初から順番に行く必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目のⅡやⅢ等)から始めてください。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- **自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。** 家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

## 地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービス成果に関する項目	13
<b>合計</b>	<b>100</b>

## ○記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないに関わらず事実を記入。)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点](アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

## ○用語の説明

家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族＝家族に限定しています。

運営者＝事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員＝管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム＝管理者・職員はもとより家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

## ○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	ビハール横手 グループホームぬくもり
(ユニット名)	西ユニット
所在地 (県・市町村名)	秋田県横手市
記入者名 (管理者)	渡辺 浩二
記入日	平成21年10月17日

(様式1)

## 自己評価票

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>			
<b>1. 理念と共有</b>			
1	○地域密着型サービスとしての理念  地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	事業所独自の理念を見やすい場所に掲示し、取り組むよう努力している。また、各ユニットで目標を決め、実現に取り組んでいる。	
2	○理念の共有と日々の取り組み  運営者と管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	各ユニットで理念を決め取り組んでいるが、意識がうすいようにも感じる。	○  1年に1回理念に基づき実践出来たかを職員で話し合う機会を設けるといい。
3	○家族や地域への理念の浸透  事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	事業所独自の理念を見やすい場所に掲示し、取り組むよう努力している。また、各ユニットで目標を決め、実現に取り組んでいるが、家族や地域の人々に理解してもらえているかは分からない。	
<b>2. 地域との支えあい</b>			
4	○隣近所とのつきあい  管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	近くの保育園・小学校の慰問、調理ボランティアを受け入れている。納涼祭では、近隣住民に参加して頂けるよう声を掛けている。	○  近所の方が気軽に立ち寄ることがないため、日常的なつきあいが出来る様にしていきたい。
5	○地域とのつきあい  事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	納涼祭では地域住民に声をかけ、地元の人々と交流する機会を作っている。学校や保育園の行事等にも参加している。	○  ボランティア活動の受け入れをもっと増やしたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献  利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	具体的な取り組みは行っていない。	○	今後、施設の状況なども見ながら、地域へ還元できるようにしていきたい。
7	○評価の意義の理解と活用  運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の外部評価で指摘を受けた項目に対し、早急に取り組み改善している。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み  運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	各ユニット職員が参加し、意見交換等行い、サービス向上に繋げているが、全職員が会議内容を把握出来ていない。	○	会議内容を全職員が把握出来る様、会議録を配布するといいい。
9	○市町村との連携  事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	介護相談員の受け入れや、必要に応じて行政担当者に相談もしくは来所を請い、助言等を得ている。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用  管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	現在、活用されている利用者はいるものの、学ぶ機会はない。	○	全職員が分かるよう勉強会を行ないたい。
11	○虐待の防止の徹底  管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止委員会が設置されており防止に努めている。言葉の暴力などにも考慮し日々業務を行なっている。	○	勉強会を開き、学ぶ機会を増やしたい。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>4. 理念を実践するための体制</b>			
12	○契約に関する説明と納得  契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約を行ったり、解除の際は、書面を利用しながら十分な説明を行い、家族の理解、納得を得られるように努めている。	
13	○運営に関する利用者意見の反映  利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情処理委員会を設置し、苦情があった際には会議を開き再発防止に努めている。また、玄関等にわかりやすく掲示している。	
14	○家族等への報告  事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	月に1回ぬくもり便りと出納コピーを送付し、利用者の生活状況を知らせている。また、異動等あった際には、職員の顔写真と名前を書いた物を渡している。年に2回広報誌も作成し、発行している。	
15	○運営に関する家族等意見の反映  家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	定期的な家族会の実施や、施設内での目安箱の設置。また毎月の請求時のお便りにも、意見や苦情等あれば気軽に相談してもらえるように記載し、配布している。必ず、運営等について変更がある場合は、家族会へ図るなどしている。	
16	○運営に関する職員意見の反映  運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の意見は、取り入れていない。入居の受け入れは、入居調整委員会が行ない、職員は参加しておらず、結果を知らされている。	○ 可否決定前に職員にアンケートを実施して欲しい。
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整  利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	4交代のローテーションを組んでいるが、職員がいつも確保されているわけではない。	○ 行事、外出、受診等決まっている日であれば、職員数を増やせばいい。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
18 ○職員の異動等による影響への配慮  運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	異動は少なくないと思う。利用者へのダメージも無いとは言えないと思う。配慮している感じはあまり受けない。 個人面談において意見、希望を聞き配慮されている。	○	あまり職員が代わるとチームケアに乱れが生じるので、最小限にしたほうが良いと思う。
<b>5. 人材の育成と支援</b>			
19 ○職員を育てる取り組み  運営者は、運営者自身や管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修については、職員の力量、段階をみて管理者が研修に派遣している。また、逆に研修案内を職員に開示して、希望者を募っての参加する機会も設けている。		
20 ○同業者との交流を通じた向上  運営者は、運営者自身や管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	GH交流会や、相互勉強会などへの参加により、サービスの質の向上に努めている。	○	とても勉強になり、今後も継続し取組んでいきたい。
21 ○職員のストレス軽減に向けた取り組み  運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	メンタルヘルスケアを行なっている。	○	メンタルヘルスケアを実施しているが、仕事に対する悩みやストレスがなくなったわけではない。
22 ○向上心を持って働き続けるための取り組み  運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	講習や研修会等の案内を教えてくれ、参加させてくれる。また、悩みや相談にもものってくれる。	○	職員一人一人の考えを知る為にも、面談等行なって欲しい。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>			
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>			
23	○初期に築く本人との信頼関係  相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	初回相談時、入所時に本人の意向を聞き取り快適なホーム生活を送れるように努力している。本人はどうしたい～等の意思表示が難しく、理解することが困難な場合もあると思う。	
24	○初期に築く家族との信頼関係  相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	家族からの情報はとても大事なので、話し合いを行ない受け止める努力をしていると思う。	
25	○初期対応の見極めと支援  相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族の困っていること、問題が何であるかを聞き取り「その時に必要なこと」そして「今後必要であろうこと」を見極めて対応している。	
26	○馴染みながらのサービス利用  本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう本人又は家族等と相談しながら工夫している	本人が希望されること、されないことを把握し徐々に行なっている。また、施設内見学や外泊等を取り入れ徐々に馴染んでもらっている。	
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>			
27	○本人と共に過ごし支えあう関係  職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	昔のことを教えてもらったり、料理や洗濯物たたみを手伝ってもらうことにより、支え合う関係を築いている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	面会や家族交流会などで、一緒に過ごす機会があり、近況報告等行なっている。急な場合もすぐに対応出来る様、電話連絡等行ない一緒に支えていく関係を築いている。	○	職員、家族でもっと気軽に話し合える関係になりたい。一緒に支えていこうとする家族が少なく感じる。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	より良い関係が保たれるよう、行事等への参加を呼びかけているが、参加される家族はだいたい決まっている。	○	利用者も家族や知り合いの方と過ごしたいという気持ちがあるので、外出や外泊等の機会を増やしてもらいたい。また、面会時などにそういった話をしていきたい。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	施設側で出掛ける機会はなく、家族協力のもと外出や外泊が可能であると思う。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者同士の関わり合いも大切にしながら、関わり合う事で精神的な苦痛を受けないように職員が配慮している。		
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	契約終了後、退所時にまたいつでも寄って頂けるようお声かけはするが、契約終了後は殆ど寄ってもらえることは無い。	○	契約終了時、退所時にまたいつでも寄っていただけるようお声は掛けるが契約終了後は殆ど関係がなくなるのが現状。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>			
<b>1. 一人ひとりの把握</b>			
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	自分の意志を伝えられる方には、希望を聞いているが、十分な話し合いの時間は取れていない。また、話せる方は少ないため、家族に意向希望を聞き、職員で検討している。	
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、生きがい、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族から、生活歴等を聞いたり、活動の中で昔の話を聞き把握しているが、正確な情報を得られない時もある。	
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	一人一人にあった、過ごし方で生活していただけるよう現状を把握し、ケース記録へ記入している。また、月まとめも書いている。	
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>			
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	家族の意向を取り入れ、アセスメントに基づき、介護計画を作成している。	
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3・6ヶ月の期間を明示し、終了する前の日に見直しを行なっている。また、状態変化があった際も見直ししている。	



項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映  日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護計画にそっての記録はなかなか出来ていないが変化等あった際は必ず記入している。	○	ケースの書式を見直し、書きやすい状態にする。 (詳しく記録されているが読みにくいため)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>				
39	○事業所の多機能性を活かした支援  本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所で出来るだけの支援を行っている。例えば通院介助、近所の美容院への外出支援、看取りなどへの取り組みなど。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>				
40	○地域資源との協働  本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関、医療機関等と協力しながら支援している	医療機関等とは協力をしながら行っているが、他の関係機関については行ったことがない。		
41	○他のサービスの活用支援  本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	実際に退去等があった場合、他のケアマネジャーへ引き継ぐなどの支援を行っている。		
42	○地域包括支援センターとの協働  本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	必要性に応じて権利擁護を利用したり、包括支援センターと協働して入居まで勧めたケースもあり、協働の体制はある。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
43	<p>○かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等の利用支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>		
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		
45	<p>○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>		
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	○	早い段階で行なわれているとは思わない。
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	○	話し合いの場に職員は参加できていない。

項 目	取り組みの事象 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
49 ○住み替え時の協働によるダメージの防止  本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、本人及び家族に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	行なっている。	○	家族と話し合いを行ない、ダメージ防止に努めているが、不十分なケースもあり努力が必要と感じる。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>			
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>			
(1)一人ひとりの尊重			
50 ○プライバシーの確保の徹底  一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	していない。また、そのような場面が無いように定期的に職員会議や文書などで職員へ周知している。		
51 ○利用者の希望の表出や自己決定の支援  本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を「尊厳の保持」に配慮して行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	個別対応（その人に合わせた説明方法等）には努めているが、十分とは感じない。また、尊厳に配慮した支援を心がけてはいるが、十分にやれているか自信がない。時に配慮を欠いた対応をしている場合もあると感じる。	○	自分達がプロであるとの意識を個々の職員が持つことで、対応が変わってくると考える。
52 ○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	業務に追われ、職員ペースになってしまうことが多い。利用者のペースに合わせる努力はしているが、「ちょっと待って」などと言う言葉掛けをしてしまうことがある。	○	利用者ペースの生活に出来る様、業務の見直しをしている。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53 ○身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	希望があれば対応している。自分で判断出来ない方は職員が理容日を決めている。入浴時には、ひげそり、爪きり等行なっている。また、食べこぼしがあった際は着替えて頂き、身だしなみに気をつけている。	○	利用者が行きたい店に行く場合は、家族の協力が必要と思っている。

項 目	取り組みの事象 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
54	<p>○食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>		
55	<p>○本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>		
56	<p>○気持よい排泄の支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう「尊厳の保持」に配慮して支援している</p>	○	努力しているが、職員が楽だとの思いから、排泄自立を怠ってしまうケースがある。また、尿汚染が多く排泄確認出来ない利用者もいるため、排泄パターンがつかめない。
57	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングや健康状態に合わせて、入浴を楽しめるように支援している</p>	○	くつろいだ入浴が出来ているかはわからない。
58	<p>○安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している</p>		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>			
59	<p>○役割、楽しみごと、気晴らしの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている</p>	○	努力はしているが、利用者がどう感じているかは分からない。また、する事がないと、部屋で休まれたり、何もせずただ椅子に座っている利用者もいる。

項 目		取り組みの事象 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
60	○お金の所持や使うことの支援  職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	殆どどの利用者が、ホーム側で金銭管理している。本人が持っている分に関しては、いくらあるか職員が出来る限り把握するようにしている。		
61	○日常的な外出支援  事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天候をみて、ドライブ等には月に1～2回程度行っている。小学校や保育園の行事、地域行事、収穫祭などの行事に参加している。	○	出掛けている機会が少ない。また、自ら出掛けようとする利用者は、殆どいないため職員が声掛けし行く事が多い。歩行に負担がかかり、あまり歩こうとされない利用者もいる。
62	○普段行けない場所への外出支援  一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	天気の良い日は、ドライブに出掛けているが、一人一人が行ってみたい所へは中々出掛けられず、職員側で場所を決め出掛けている。	○	家族に協力してもらい外出・外泊の機会を増やしていきたい。また、少人数での外出や買い物も行っていきたい。
63	○電話や手紙の支援  家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	自発的に電話をされる方はいないが、声をかける事により、手紙を書いたり、電話を掛ける利用者もいる。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援  家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	訪問された際は、居室でゆっくり過ごして頂けるよう努めている。	○	家族の面会は年々減ってきているように感じる。また、訪問時は居室で過ごして頂いているが、居心地がいいかは分からない。共有スペースに和室があるが、他利用者がホールにいる為、そこで過ごしていただくのは難しい。
<b>(4)安心と安全を支える支援</b>				
65	○身体拘束をしないケアの実践  運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は現在行なわれていないが、危険となる行為があり、やむを得ず行なわなければならない時は家族の承諾を得ている。		


項 目	取り組みの事績 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
66	<p>○鍵をかけないケアの実践</p> <p>運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに努めている</p>		
67	<p>○利用者の安全確認</p> <p>職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している</p>	○	利用者居室を開けっ放しにしている職員もおり、プライバシーの配慮に欠けている。
68	<p>○注意の必要な物品の保管・管理</p> <p>注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている</p>	○	注意が必要な物品について、個人の状況を勘案し、家族とも話し合いながら、自己管理できる環境を作るように努めていく。
69	<p>○事故防止のための取り組み</p> <p>転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる</p>		
70	<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の実践訓練を定期的に行っている</p>	○	看護師が殆んど対応している為、実際できるかは分からない。
71	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている</p>	○	ビハラー横手として働きかけ等を行っていく必要がある。

項 目		取り組みの事象 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い  一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	管理者より、入所の際に家族へ説明行なっている。	○	家族にもっと現状を知ってもらいたい。現在は元気な方でも今後についての話し合いなど、一人一人の家族と話し合える機会があればいい。
<b>(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>				
73	○体調変化の早期発見と対応  一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎朝のバイタルチェックを実施している。状態に応じて看護師への報告等を行い、情報の共有や体調悪化時の対応が迅速にできるように努めている。また、朝夕の申し送りや業務日誌を活用することで、体調等も含めた情報の共有を図ることで、全職員が異常の早期発見ができるように努めている。		
74	○服薬支援  職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解に努めており、医療関係者の活用や服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の服薬の説明がケース記録にとじられており、いつでも目を通せるようになっている。一日分の服薬は指示通り出来ている。		
75	○便秘の予防と対応  職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	一日一回必ず乳製品を摂り、活動の中で体操や散歩を行い取り組んでいるが、殆どどの利用者が薬を使用している。	○	薬は最終手段として、なるべく自然に排便出来る様な取り組みをしていきたい。理解も工夫も不充分だと思う。また、職員の勉強会等行ないたい。
76	○口腔内の清潔保持  口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後、必ず声掛けし口腔ケア行なっている。溜め込みのある利用者は口腔内を確認している。夜間には、義歯の洗浄も行なっている。また、必要の際は、家族に相談の上、歯科受診している。		
77	○栄養摂取や水分確保の支援  食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう状況を把握し、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	月1回、各ユニットのカロリー計算を行っており、全職員が把握しているが、一人一人の摂取カロリーが足りているか、不足しているかは分からない。月2回の体重測定では、特に変化は見られていない。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	感染対策委員会を中心に勉強会を行ない実施している。また、マニュアルもある。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	調理器具等、ハイター消毒を行っている。また、食材も毎日スーパーから配達してもらっている。	○	食材は賞味期限を確認し、早めに使用する。
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>				
<b>(1)居心地のよい環境づくり</b>				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	入り口付近にプランターを置いたり、玄関内に写真を掲示したりすることにより、入りやすい工夫はしているが、気を使わずに来所するような近隣の方はいない。玄関前は広く、車の乗り入れもしやすく、スロープになっているので車椅子も通りやすい。	○	出入り口が分かりにくい。もっと家庭的な雰囲気を作っていきたい。
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や臭いや光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	建物は木造で出来ており、家庭的で良い面もあるが、ホールよりすぐトイレが目に入ってしまうため、のれんを設置し対応している。季節感を感じて頂ける様、装飾を施し努力している。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールにはソファや和室があり、ゆっくりと過ごして頂ける場所もあるが、一人になったり、気の合った利用者同士自由に過ごせる場所がない。	○	一人になりたい方には、和室や居室で過ごして頂いている。



項 目		取り組みの事象 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮  居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好み のものを活かして、本人が居心地よく過 せるような工夫をしている	本人の使い慣れた生活用品や装飾品を持ち込み工 夫している。転倒等の危険がある方に対しては、 物を置かず安全面を一番に考えている。		
84	○換気・空調の配慮  気になるにおいや空気のだよみがないよ う換気に努め、温度調節は、外気温と大き な差がないよう配慮し、利用者の状況に応 じてこまめに行っている	温度計を見て、室温調節をしている。また、利用 者に合わせ掛け物や衣服にて調節を行なってい る。冬場は加湿器を使用している。	○	便臭などホール内にこもることがあり、換気して いると、利用者に寒いと夏場でも言われることが ある。換気時間を短くし、こまめに行っていきた い。また、職員本位の温度設定にならないように 注意していきたい。
<b>(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり</b>				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり  建物内部は一人ひとりの身体機能を活か して、安全かつできるだけ自立した生活が 送れるように工夫している	廊下やトイレには、手すりを設置している。ま た、状況に応じて福祉用具使用等の検討をし対応 している。	○	手すりが必要な箇所があり、設置したいと考えて いる。(浴槽・玄関付近)
86	○わかる力を活かした環境づくり  一人ひとりのわかる力を活かして、混乱 や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工 夫している	トイレにはのれんを設置したり、居室が分から ない利用者には扉に名前を貼ることで、場所間違 いのないよう工夫しているが、職員が手や口を出 してしまうことがあり、利用者の出来る事を奪っ てしまっているように感じる。	○	利用者の出来ることはなるべく自分で行なって もらい、職員は見守りしていきたい。
87	○建物の外周りや空間の活用  建物の外周りやベランダを利用者が楽し んだり、活動できるように活かしている	敷地内には、畑があり野菜の収穫も出来る。ま た、デッキからは周りの景色も見渡すことが でき、日光浴やお茶を飲んだりして過ごしている。	○	外専用のベンチやテーブルがあれば、いつでも外 に出てお茶を飲んだりすることが出来ると思う。 また、南側デッキに段差があり通りにくい。利用 者の身体機能低下もあり、出来ることは限られて きている。

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

V. サービスの成果に関する項目		
項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者の <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいの <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいの <input type="radio"/> ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<input type="radio"/> ①毎日ある <input type="radio"/> ②数日に1回程度ある <input type="radio"/> ③たまにある <input type="radio"/> ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての家族と <input type="radio"/> ②家族の2/3くらいと <input type="radio"/> ③家族の1/3くらいと <input type="radio"/> ④ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<input type="radio"/> ①ほぼ毎日のように <input type="radio"/> ②数日に1回程度 <input type="radio"/> ③たまに <input type="radio"/> ④ほとんどない

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○ ①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
98	職員は、生き活きと働いている	○ ①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどできていない

**【特に力を入れている点・アピールしたい点】**  
(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

行事を多く行ない、家族との交流を深めている。畑に野菜を植えており、旬の野菜を食べている。ドライブに行く機会があり、利用者の気分転換になっている。